

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立本庄小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日（木）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童（中学校3年生生徒）

■ 調査の内容

（1）生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童（生徒）に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 （例）学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 （例）授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

（2）教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結 果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に回答した児童(生徒)の割合。

佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目	本校 %	全国平均 %
学校に行くのは楽しいと思う。	77.4%	86.5%
将来の夢や目標を持っている。	73.3%	83.1%
自分には、よいところがあると思う	90.2%	86.9%
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	87.3%	84.9%

「自分には、よいところがあると思う」「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」の項目は、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも上回っているという結果が出ています。

「学校に行くのは楽しいと思う」「将来の夢や目標を持っている」の項目は、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも下回っているという結果が出ています。

家庭学習の様子に関する調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	14.1%	12.1%
「2時間以上、3時間より少ない」	8.5%	12.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	23.9%	29.1%
「30分以上、1時間より少ない」	31.0%	27.4%
「30分より少ない」	16.9%	12.9%
「全くしない」	5.6%	5.7%

家庭学習については、3時間以上の児童の割合が全国平均を上回っているものの、1時間未満の児童が半数程度おり、全く学習していない児童が5.6%いました。

(2)改善に向けての取り組み

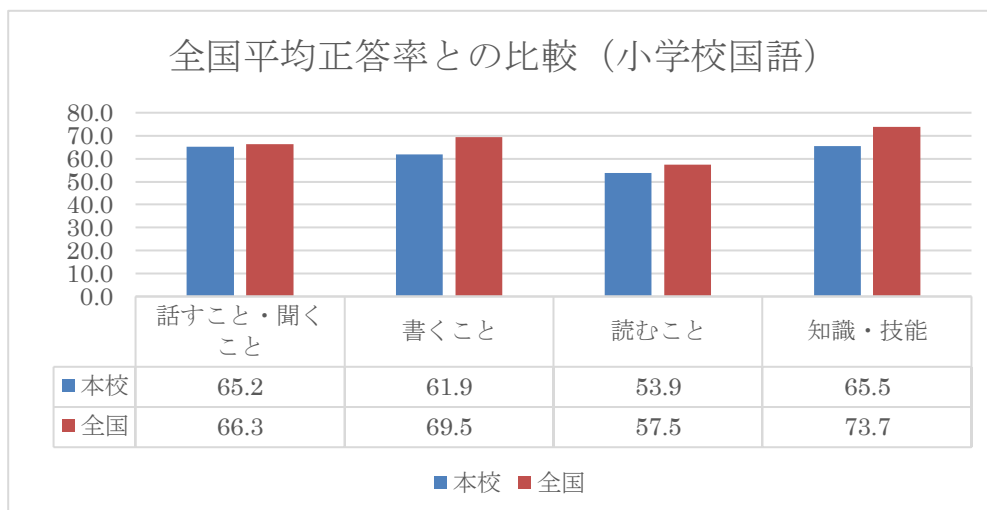
【学校では】

- 引き続き、友達との対話を通して自他のよさに気付く場面を教育活動の様々な場面で取り入れていきます。加えて、全教職員で「スクールワイド・ポジティブ行動支援」に取り組み、子供のよい行動を価値付け、増やしていきます。子供が自身のよさや成長に気付くようにし、自己肯定感、学級や学校への所属意識を高めます。
- お子さんが学ぶことのよさや意味を実感することができるように、単元を通した学びや中長期的な振り返りなどを設定し、様々な場面で主体的に学ぶ姿を支援していきます。お子さんが学ぶ楽しさを味わうことが、「学校に行くのは楽しいと思う」「将来の夢や目標を持っている」姿につながると考えます。

【ご家庭では】

- 家族での会話を大切にしてください。結果だけでなく、お子さんが工夫したり、努力したりする過程に目を向けて褒めることが、次の意欲につながります。
- 学校では、学年に応じた宿題を出しています。家庭学習では、取り組んだ時間や内容を見えるようにすると、学習への意識が高まります。

2 国 語



(1) 結 果

全ての項目で、全国平均を下回っています。特に「書くこと」「知識・技能」では、全国平均正答率を 5.0 ポイント以上下回る結果でした。

(2) 成果と課題

昨年度の佐賀県小・中学校学習状況調査の結果「話すこと・聞くこと(全国比-6.1)」「書くこと(同 8.6)」「読むこと(同-6.5)」「知識・技能(同-9.3)」と比較すると、4項目中3項目で全国平均正答率との差が縮まっています。特に「話すこと・聞くこと」では、5.0 ポイント縮まっており、県平均正答率 64.0%を上回りました。これは、普段の学習場面で、対話を積極的に取り入れている成果が表れていると考えられます。

課題は2点あります。1点目は、知識及び技能の「言葉の特徴や使い方に関する事項」の力を伸ばすことです。正しい漢字を書くなどの問題の正答率 62.1%は、全国平均 76.9%を 14.8 ポイント下回っています。2点目は、問題形式「記述式」の正答率を上げることです。正答率は、48.6%で、半数程度の児童が苦手としています。知識及び技能を活用しながら、思考力、判断力、表現力等を主体的に働かせ、記述したり、話したりして表現する学習を積み重ねていくことができるよう、授業改善をしていくことが重要であると捉えます。

(3) 学力向上のための取り組み

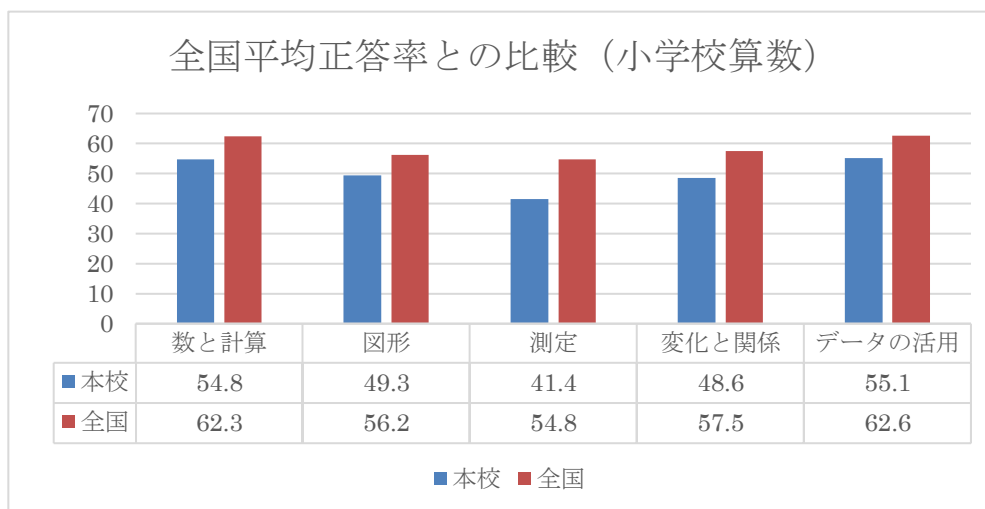
【学校では】

- 個別最適な学び、協働的な学びにつながるように授業改善を進め、自ら学び続ける児童の育成に努めます。
- 毎日の授業で、学習した漢字や言葉を活用する機会を設定し、知識及び技能の定着を図ります。
- 日常的に書く、話すなどの言語活動を取り入れていきます。その経験を積み重ねることで、児童が思いや考えを表現する力を伸ばしていきます。

【ご家庭では】

- お子さんが書いたり、話したりする機会を大切にしてください。それに対して、大人の肯定的な反応があることで、表現して伝えるよさを感じることができるようになります。
- 音読や読書を習慣付けてください。様々なジャンルの本にふれることで、読み書きの力や語彙力の向上につながります。

3 算数(数学)



(1) 結果

全ての領域で、全国平均正答率を下回るという結果でした。特に開きが大きかった領域が「測定」で、全国正答率と比べて 13.4 ポイント下回っていました。

(2) 成果と課題

今回の調査では、全ての領域で平均正答率が 50%程度で、全国平均正答率を 5 ポイント以上下回っており、課題が多くみられました。そのため、まずは各領域の基礎的・基本的な内容の定着が重要となります。

また、問題形式ごとの平均正答率を見てみると、選択式・短答式の問題では 70%を上回っているものがある一方で、記述式の問題ではほとんどが 30%を下回り、答えの求め方などを式や言葉を用いて記述することに課題が見られました。考える過程を図、式、言葉などを用いて表現する学習を積み重ねていくことができるよう、授業改善をしていくことが重要です。

(3) 学力向上のための取り組み

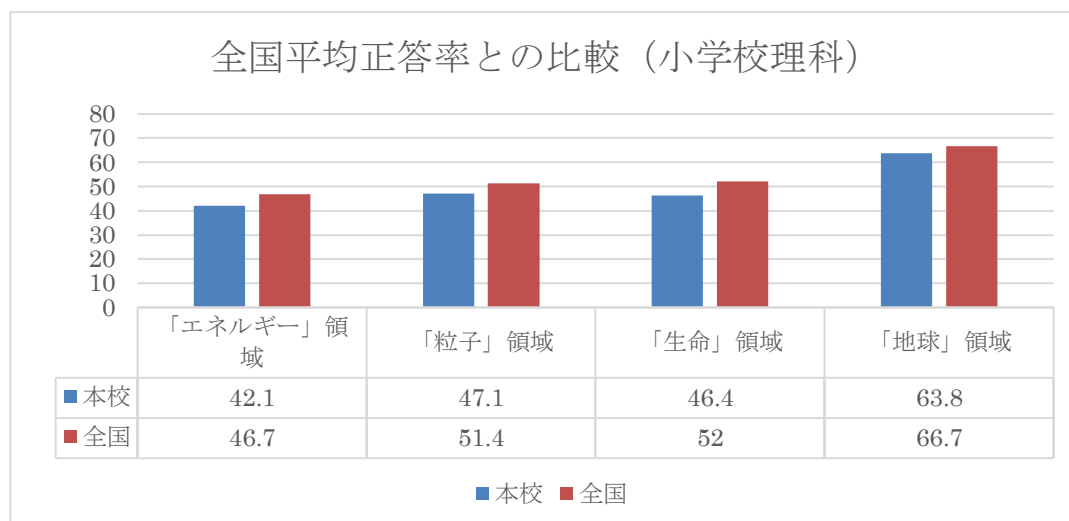
【学校では】

- 授業や家庭学習等を活用し、基礎的な四則演算や単位換算などに繰り返し取り組ませ、算数科の土台となる力を身に付けさせていきます。
- 実生活と関連のある問題の設定や学びを振り返る機会の保障など、算数科の学習への意欲を高めたり、自己の努力や成長を実感したりできるような授業改善を進めます。
- 答えを導き出す過程を図や言葉で表す活動を積極的に取り入れ、児童が数学的な考え方をしていけるようにします。

【ご家庭では】

- お子さんの宿題の様子や返却したテスト等をご覧になって、たくさんの励ましや称賛の言葉をかけてあげてください。前回からの伸びに目を向けることで、子供の努力が価値付けられ、さらなる意欲につながります。
- 時計や買い物など日常の様々な場面で算数科の考えを使うような問いかけをしてみてください。算数科の学習が実生活とつながることで、学びがさらに深まります。

4 理科



(1) 結果

全ての領域で、全国平均正答率をやや下回るという結果でした。「粒子」領域と「地球」領域では、県平均正答率と同等程度の結果でした。

(2) 成果と課題

「粒子」領域と「地球」領域の観察・実験の方法に関する問題では、正答率が全国平均正答率を上回っています。これは、普段の授業で、一人一人が問いをもち、解決のための観察や実験の方法を考える時間を保障していることの成果だと捉えます。

無回答率を見てみると、ほとんどの設問が 10%を下回っている一方で、記述式の問題では、いずれも 10%を上回っています。このことから、結果を基に結論を導いた理由を考えたり、新たな問題を見いだしたりして表現することに課題があるといえます。そのため、観察や実験の結果を考察したり、次の問題につなげたりする学習を積み重ねていくことができるよう、授業改善をしていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 「学習問題の設定→予想や仮設の設定→計画→観察・実験→結果→考察→振り返り」という学習過程で学びを進め、児童が理科の見方・考え方を働かせることができるようにします。
- 子供が問いをもち、主体的に解決していくことができるような単元計画を考え、授業改善を進めていきます。
- 視点を示して考察させたり、学びを振り返ったりさせることで、児童が結果を基に考察したり、次の問題につなげたりする力を伸ばします。

【ご家庭では】

- 身の回りの科学的な事象にふれる機会を大切にしてください。実際に体験して、考えたり、理解したりする経験が一番の学びになります。
- お子さんの興味や関心に合わせて、自由研究に取り組んだり、佐賀県立宇宙科学館に行ったりするなど、親子で理科を楽しむ時間を大切にしてください。